

松尾治追悼写真展が土庫病院で

私の双子の弟・松尾治が昨年末に急逝。長期にわたって撮り続けてきた富士の写真が膨大な数で残されました。その一部は、このホームページ「新・山と花のたより」にも第1集～第6集まで収められていますし、また治本人のHP「山々からの富士山」などにも収められています。ご覧くだされば幸いに思います。

土庫病院 1階で追悼写真展が



その遺品
とも言うべき
写真の一

部が、現在土庫病院1階で展示されています。社会医療法人「健生会」の稲次直樹名誉理事長のご好意によるもので、4月末まで続けられます。山岳写真家だった弟にとって何よりの追悼でありますし、兄として深く感謝申し上げます。



追悼・「山々からの富士山」花編

残された作品を見ると富士山を撮影する際、季節、季節の花を写し込むことを意識していた事が解ります。

病院での展示作品もそのいくつかが選ばれています。

このテーマでの他の作品のうち、4つをご紹介します。勝手にコピーし、縮小したことによる画質の減退を恐れつつですが。

右の作品には「**葦崎・サクラ**」と書かれています。



左の写真には「**河口湖4月**」と添え書きされていました。

陽光を浴びてなお、すっきりと聳える白銀の富士、そして春爛漫と咲き誇る花々。

厳しい冬を耐えて、今か、今かと待ち望んだ春の到来。生きとし生きるものたちの、迎春の悦びと富士山への敬愛の念が溢れている作品ですね。

他にもコブシ、スイセンなど、春の花を写し込んだ作品が数多くありました。



「ヤナギランの季節・大菩薩7月」

今から 45 年前、1977 年 7 月 31 日父の 10 回忌に、母から「信州上高地に集まれ」の連絡があり、兄弟姉妹 6 人の家族総勢 17 人が集まりました。

翌 8 月 1 日母を含めた全員が徳本(とくごう)峠(2135m) に登りましたが、71 歳になっていた母が、みんなと同じペースで歩いたのには驚きました。

この時、咲き誇っていたヤナギランを教えてくださいましたのが弟でした。

右の写真が撮影されたのは夏ですが、近づく秋への移ろいをも感じさせますね。



「フジアザミ・山中湖平野」

フジアザミは日本特産の植物で、アザミの中では特大です。

他のアザミを見慣れている人はびっくりするかもしれません。

富士山周辺の山地に自生するので、この名になったそうです。

富士山に何を求めるかにもよるでしょうが、月見草だけでなく、この花と富士山の取り合わせも、悪くないと思われますね。

弟の作品の中には「シロバナフジアザミと富士山」もありますから、ホームページでお探し下さい。



続・続・二上山に咲く花々 43

コックバネウツギ (小衝羽根空木)

スイカズラ科ツクバネウツギ属

写真は故澤木仁さん

日本固有種の落葉低木。分布は西日本。二上山では明るい雑木林の中に自生し、5月～6月に薄いクリーム色(または白色)の鐘状漏斗型の花を付けます。花冠は2～3cm、先は5裂し、内面にオレンジ色の網目状の紋が目立ちます。

果実はプロペラ状の萼片を付け、それが羽根つきの羽根に似ており、花が同時期に咲くツクバネウツギよりも小さいからこの名に。ウツギ(空木)は枝が中空になるから。

